国立公文書館
National Archives of Japan

文子圖書記

明治十四年購求

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]りんとや
七日くに[illegible]
[illegible]

いりまつくう

わくまーうをらうひうをつ[illegible]やいをとのこちん[illegible]
せううこせさまを[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

わ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ねのみのもとなれば也 [illegible]

とうもや

行縢をとるさまも俗の[illegible]と[illegible]

[illegible]

陸奥の国[illegible]

きたるとて[illegible]

俗の[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひろかあもとあるこんたれ　　の切なる　はけ　ほ　ほうあるとあるこ
しれなも
るあるこれなというあるこもほうるるこほうなもこ
まるにうるなく　　もの名称　蕎と云くくこ天ふ
易経とう易也　さるへさ云こ　ほうるるこのん
也　細　おうるほかあるこ行もの　蕎の仲信あるこ行もの名詞
清清ひみけうの大義の大楠と也　　仲信うるも
心のうるにうるのとうり
也　也　蕎と宇治りとう行　てくもうる也心くくはんこ
うるとの心也　細　口みくく清使あもの名うるも　行あるる
河あるこう名也
年はあるへ今りに者る紙うるこ

さうと云ん市也今より後行のはをてもうるこ行寄
うう　乃　あるとはしるる名へ
みさやうるとへ云市はうひるる名へ　蕎と安天り当
実方ましこさあれはそあるこあもせ二へ云紙さやうに云九
えはるる四こみ代我んうこ　こ行名へ中也　也　こ
玉字如へ
はさなれへあるこあるる紙はわのやをにはるこまうんを
うるこもうこうこうこうんなこ云系ものる名うり
安天の後のこ碧代毛寄也　細　は使とこ心
あをるる也
うるこうこうむまうこあるこうひなれは　安天仲信とよ
まるる河也　碧はあるなを也ようせる前也
ものもるれ紙こ清こうもまこうこ中　仲

侍を呼入て[illegible]
[illegible]
なるべかり　[illegible]
[illegible]
[illegible]
侍らに　母天の色養[illegible]
[illegible]　細　母の[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

ゆ　細　あれ　ゆ　ゆ　ゆ

きたにとなりたるうたゆうとしたつひとをあんなれと

細　常陸ちうるるとめさむいんさとをいうとも　蓋乃人常陸ちうるのもとに

やり海ちさと弾指也　仏　蓋乃人常陸ちうるのもとに

ひとり可行とも

行つあと　細　浮舟を実り常陸ちうるのひとめ様とともある

をれあるも

さきうとれんのひとめ様いやとあり

のひとめれはつあと宮はうふ新なれあるはとも作日　更行たうる人

やれとうるへきにとおめうるへ様さんとけんのうるへ

きたとうけ　り給はつうはんのとれうるはとんのそ

しるつちるるとやとをを蓋乃毋をんのひとめとをは

うんはつるさんしうこ語りんとの行へ山とやとれ

のあれとをも抜判したるうも

をくんへうるあやしおをんを学をあるたるうもちも

のあたうひはるうと　平人つ　ちをを学とを可うを事

学にをうひをも　河　九俗　日本紀

かのうれひとめや弟ちとんのうひるをんあとワうをてあ

の　常陸ちうひとめれるうも

ををにあうへををれをあたうば　作　をに

あんをもうけちをもるやうれ事みをあ、先とも

ひうとうるいるうにあ、あうんあやの四りを紙この

語うるとをを　り語とうるにあたるをより紙のう主

しををあ紙先生と主行うんとの山也

おをくしうれとをひをあるとをいをうあしをみをへを事

をを知也　行　あをうらうるを思をうにとも

くるにたゝぎらのさたちあるこゝ
へ常陸ちたるこゝまれるやも　於　かまるたる法のこゝ
おしもとくあのかるまちもとこゝまれ　女房を所
打ぢ母天の様のゝ行ともう服立なるへ
年はつりくにたんおりけるなもとかあのまこゝをけりを
ものに　母天の心やもとまれおるとおもをこゝくともるにもこゝ
せさるこゝも　細　宿舟のたゝ示也
くれさちにくけりまけりまけりこゝ
もう心あの所ハすれはさまこゝ思
ひるもも
京りもとむへ行ひてんのちめいはくわりてもこゝをこゝ
思ひ弟ちやとにうれいふきをかくさんとわいなくて有しさ
またくくるあたる度ちはりこゝ見ちを遣所

母の心やしの為と為つまへ行てきみくしおけちよ
もいうんやひしとやというくちびもいてやもちになく
く行ちも
まれへうこしあるのひ物めてもをひをみく
又一家りもう心ちもうへるもとをこゝにふんなれハ業のく
をこゝ田舎ひくる心めくく物めてもをもこゝ
細　心常陸ちたつ上臈なもをハちこゝをこゝのある
人や　弄　常陸ちるまりまおふへめくこゝも
やもうをけくしてうこゝけるやくたさいし
ひとをてくこゝをけりるへ郎　ちう業の人を見こゝよ
こ業をけ物てとおもうきたるもるふなをとこゝ
よしけくしあるこゝや
このまとを度へ人こゝまりはこゝまりまとちこゝうひ行

[illegible]

[illegible]

八幡さうぐうにまいる也

[illegible]

まいりてゆうしんせうの[illegible]

[illegible]

今あんうちなれる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世法舟の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるいはいつのころかは知らぬ
ひとりとなりたるものとおぼしくさまざまにさとりをひらき
つくしかたくしかくしかくしか

教へ
事陸つ[illegible]てんとなくわるくとあれあんあやしくせんく
見る事の[illegible]なくもられたるもと蓋の赤粒のえと赤の頭りあ
まれと字治は著くはけるれたものやうに弛毛もるなく
ぬとくくくれの害もとの儀也
字治人さたるも　れ　小のの事
おねのこまもてつくりさきもんとさとひつたのうち
なるなねもくなく　母天のんやもるおねのるを法分
元めらてせんとはこと蓋の五ひくくしはけるすもと
のさ成あは中くとうひくくしも也
もうくさられぎるとと　とりへくに　こくきやと
言離つるも　河　彩羅也　百蓋十五　悲別贈答云　結
絶院寺　朝間図也

[illegible]とひるものを
限あまはのやしくるを弟うこのぼくくれ五ひたるやくにあは
たまことをくひられさはるに　もともるは法ふとと
ひもふ除ふとなるを物を母天のとふ也
いもたくもくえ　は碧あ今下あくふ也
ふ多あ多あ多あ　ぬんのをくせるうけるとと
は段とるるはは限いるを蓋のはるれいめくをとくく
報ふ除は思くつくは碧いるるはくふんをもあ
とのるにや又母天の紙ともくくを射もるうれるら
はるは碧は蓋はるるを射てるも　れ　母のん
天のうくを法涌くはひ　中天とは碧と面ひ弱るも
と法のまんのつくりもせさを法くり　まくとを布施のるも
花
七法のまんを信合るも七法法云八四十九日行事也

藤原 後撰 一 哭歌 三礼 唄 敎花 堂達 ちとせ

僧とうた

今あんとうたんまたうけうとやみうとまてさそうめうめ

菫つゝ菫とおもはるつゝ菫つゝ菫とさうしゝあるやも

宋 はつゝも菫つゝ菫おもはるまとさうしゝあるやも

はるゝみもあゝはるゝ菫おんと 菫つゝ菫とはるゝみもあゝはるゝ

さうぬんなれとも女二宮うりはれあうゝ行んとはるゝ

もゝとはゝくゝ会やも ひはるん

菫花ほそ

あうゝうゝもうゝ中てゝくゝしゝはるゝ菫いとはるゝ

はるゝゝ 細 女二宮うゝはるゝ

あうゝはるんのはんれうゝ中はるゝ 細 白菫也

宮 いあやゝゝゝうゝしはゝはるゝ

ゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ

てはるゝはるゝとなるうゝしはゝはるゝはやゝゝ沙心とはるゝさは

やゝはゝはゝはゝはゝあゝはるゝはるゝはるゝはるゝはんのはるゝ

白うゝさ舟とゝ敎行はるゝはるゝ

はるゝあゝゝはいゝはゝはゝはゝは

[illegible]尼たちの法華堂にてこの事ありしとも　細　蓋也

[illegible]

右の文の法華経の服はいとなんなくこの事ありしまうけ

四人中文殊服を行ふ源氏の法会の式アの文はまた

始りまた中宮の法華経の文なれども雜服

とさうなくこの事ありしとい服の間八六条院は中文

ありしまうけも　仏　同之

二乃文の方に書かれたりけるは　白ア之文の法花

文也四人中文の法花経をうの式アのうれ行人を

寂之如経也　仏　右経の二文を乃先世也

行とうしうたてはのあしもあり行うた

仏式アの文

に如経にはもしうしをて事のもとをもとの

[illegible]同

仏文をかうしもしもなりまに　細　白也

一京の文乃法花経をくさの[illegible]

宮のうち

[illegible]人のうちをも　細　一京の文のあり[illegible]也

[illegible]　女一文のはうるく女

房の中に白文を[illegible]

[illegible]

[illegible]　仏　[illegible]

大情度のうちしてをひくうしひ[illegible]こ宰相乃元とい

殺人のうちをもうもをも　蓋の[illegible]也

一京の文[illegible]の女房　花　蓋乃[illegible]女一文の

[illegible]

[illegible]人也

[illegible]人[illegible]　蓋の[illegible]

小宰相の君は琵琶の琴をぞ
弾給ふ　ことさらはなやかに
さりのみとうたれものうちひたすらにあれかしとあんえん
あるべくも　はなやかにとうたれと　細　琵琶たるべし
此あるも幸はいとうるはしく　花　白あるも山人とたに
あるべくも思給へるやいとたをやかにさやかに菫よりはさらに
はなやかにあるべくもひたすらにうるはしく山路也
いとたをやかなり　細　はなやかなれとも
きんのうひやかにあるべく
細　白菊小宰相は菫のるとひやかに行也　年同
花　宮は菫と小宰相との中とひさをはらしも
あるべきにもあらねとも
はなやかなれ　小宰相は白菊あはれとも

我はなやかにうるはしくまさりたるやうにはあらんとも
菫は　細　菫はあるべくもあらねとも白菊はなやかにまさりたるとも
小宰相は幼也白宮なれとやてはひねくもなくあるも
とはなやかにうるはしくあるも
まあ人はなやかにうるはしくはなやかにうるはしくあるも
菫は小宰相は可然人はなやかにうるはしくあるも
とひとの中に別るとの幼也　れ　小宰相はうるはしと菫は宮
人はなやかにうるはしも　細　菫也　花　宮人は菫也小宰
相は白菊はなやかにうるはしくはなやかにうるはしくと菫のとひ
やうに舟にはなやかにうるはしく
かく相思ひあるべくもあらねとも　花　菫のうるはしく舟にはなやかにうるはしくと歌行とは人知るべく小宰相は
はなやかにうるはしく　細　同

小宰相の君の悲傷あはれ
あるべきなれい歟しかしてや
細 せうとの人々とともに物あはれにふかくなるやう
小宰相の歌のわかれ悲しく知られ物あはれ
なるべきなるべし　若きもと山引の君と
ともにあはれなるべし　蓬の露とやうに
を但山河の紅葉の錦とやうに蓬の露とやうに
もつさ袖にとゝまれ歟やはり山路の松月後徐々に
殺しへ後撰集十九　多秋の歌　蓬の露とのこる
物なれあるべし　山ゆかのおもかげのやうにとゝまり
所流さるべきなり　細 紅葉を浮身にわかれとゝまるべき
やあるべきなれとゝまるべきやうにやはり引の君
袖にとゝまれなるべきとゝまるべきやうにとゝまるべ
きなるべし　宰相の君とゝまるべきやうにとゝまる
細 せうとの人々は袖にとゝまるべきなるべし
蓬の露の物あはれなるべきなるべし
はるかにかくれなるべきなるべし
蓬の露の物あはれなるべきなるべし
且一とゝまるべきなるべし
乃ち和歌にとゝまるべきなるべし
細 せうとの人々は袖にとゝまるべきなるべし
蓬の露の物あはれなるべきなるべし
宰相の君の和歌にと

[illegible]やうれるをんなに宰相のうへ蓋のうへ行也
たちもと行ゝ　仁　宰相のうへ也
いとゝうへ[illegible]に掛ゝ[illegible]　蓋の[illegible]也　小宰相殿
と[illegible]る[illegible]掛ゝ[illegible]　細　蓋の[illegible]也　平生事
たゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]　蓋の[illegible]
ありさにたゝ[illegible]行[illegible]　仁同
人[illegible]ゝ[illegible]　蓋のまゝ[illegible]
宰相のうへ也　細　小宰相殿[illegible]
[illegible]ゝ掛ゝ[illegible]　宰相の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]　小宰相のうへ

早下也
[illegible]ゝ[illegible]
蓋の[illegible]也　小宰相殿[illegible]
禁中[illegible]
[illegible]　仁　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]　花　弄　細同
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]　細　宮[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
宰相と[illegible]ゝ[illegible]　弄
[illegible]ゝ[illegible]　蓋
[illegible]ゝ[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

みかどのとたちくはくらのほと　ちうしとをとをとをのひ
をてんくのうをみてをうはくをもをををををを
十くまを女一宮わたらせ給やう
をのわたらせ給て殿宮おりてまいりたまふと　年　一品宮の事
六条院の御うしろ也寝殿みなみ八講行なるべき
御ものくちうしろ女房をとのくはらのをりをり
女房をとのくはらのをとををををををををを女一宮の御方をに
いんをくをあるとも　花　こう八園也
おなじ人をいとをくをあるれ夕暮より　れ　女一の宮をれる
大将殿をををさうをく　年　中宮の御八講の時也
八講八条宮也　ををををまあしたの時也
ををまをりをの後のをををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　さぶらひ

一　ちゝうしろなるさぶらひ　ちゝうしろなるさぶらひ　ちゝうしろなるさぶらひ

ものいひをうたにはしてあり

一　ちとせあまりのちとせもあまりと紙すりつゝて女一宮よりまゐらせ給

花　ひとうつくしうたまなとゝまるまかれ人つるを

おまへ人あまたとくあまたせたまへやとうたにはしてその事

いとうつくしうなりにたるさまにやり給てのこゝを給

女一宮のいとあはれとうきをうらはへとも事よりもつくられて

もらはまゝきのはやつるもたくしとをつやもものまし

きつゝも　花　きくるとつるゝ

つれもなくこゝにくるつゝやの給へはこゝろはのうにさくこゝも

隔りなくうらはし　女一宮とみるゝとゝにはあるとやのを

うまゝきこの御をあるとゝにはあるとやのを

まさつゝちいさくおつゝまうし御よあるとものんすしこゝみ

つゝ時めてたうちこれは給やとかゝまうし

女一宮おさなくおつゝまうし時のるゝや

そのうらはこゝにはうちはるはをつゝるゝ神

仏のうらはをみをはつるあるこんとのやとこゝにはをこゝん

ともゝるにやあるこんやうのをこゝ心をこゝ給ものをこゝ給

う　神仏の我よはあはれ思こゝをこゝ

の恵はあはれとうちはるこゝ事よはをこゝ

こゝをこゝのおもはこゝ心こゝ

大条院の内ゝくれるゝ

こゝはこゝうしこゝをこゝ

花　つゝをこゝうちはるこゝ

おつゝとうるこゝ

思出こゝ　陰ゝ内ゝ

とゝうこゝ

人もまねぶべきてさまとおぼえ侍るとひろれいまとひろめ

一　下臈女房の心

心あるまもりうばそれにそれあるんとんさうさあるとのうさ
ぬるんこんこもとまるそれのこんうまきこいみとちち
ちうてそれもるんしまるてくしきやとおのく

業と女房うるうまちるや

めくまたひぬ　業のそれとうんしやうまたるや

たくさんにられまと意記物はあまきあちうまとうう

こうはもいうこうなわうさう部ちれ性をうんあくこに打すて
事れるよ　下臈の女房れるひやうまてとはしうにまてたち

ゆれうるやいんみくさうるさやうの業のそうれるるまとうう

五のうち屋れうんたちるくうるれんうるうまきやてうるあも
わくもぬのゆのくあくこまるまうちうくうをちうくうまと

夕雲れ見ちるまやと女房うう思ひや業と寄えようとう
るうるうんあくうぬるもきにみくまれるうんすてんもちち
ゆうしまるまうてうくいうるや　細々業れけるまるうくしるや

うあくるや出さうん　陸よあやまたるるうにいうくれ口舌
たるるや出事んとうう女房のんや
ひるんくるうるるるくくあのうさ
んるるうるるれけるあるくくるくや
るくるるるれけるるる

国立公文書館
National Archives of Japan

蓋の袖也公路の中を俗日女一えの方をたしなしはとも女二え
はさきをたくはなやとは公路ひとつ人ぬくしはあり
ぬはとんきあるぬはとの事也
あるをこにをまりて太武ちうをまつくひとくの内をぬいて高れ
をこのをの所也　おのをこれ女三えの内のものや太武とて所
脇ちをと綱人ぬくしをまにの内をぬつく事をせをとをつを
の所付ちを也　先　一ふの文れををるをにひとくをまの所あ
也　細　女三えの也　於　袖綱をちえのをを也　地引つををを
を武えの女房をを太武ををあをを
行をを人をを人ををこれはををを

[illegible]

女一宮

あやうく[illegible]

[illegible]

[illegible]

女二宮と一品宮の事 故なれと昔人の絵をうつして所
さんいとをかしくもあるとをもあり うらやましくもあるの意
幻也

みをつくしぬ 乾宵なまとも

一品宮は又をもをなやと宮のうらへ 薫の初也 女二
宮のはゝうへさうりゝ行りゝ女一宮のはゝ紙をかんとの下
四也 弄 一品宮のうへをとゆるゝゝ給 薫は幻也
うちふかゝゝ時うへのさうりゝ中のしうをとゝ見さを
あるもとの給ふ 女二宮の色合也 禁中にあるゝまゝ
しゝ時はつと一品宮へ又をもをなれとの給ふゝ人をもをとと
をは入しるをもあるゝやをぬるゝとの給也 細 一品宮は初也
たゝんとあるを給ふるとゝ
こゝをは幻うるれと

薫の初也女二宮の薫は

そゝまを給ふたりたるを女二宮はりてゝ
をもうゝ行るゝとをもをを薫はんゝをもとゝ
い給ふ宮のはゝ薫の初也 細 女二宮の初也
薫の初也女二宮下の方に給ふとをいせんとの給ふ
うよへなをとて恨給中紙女后へ給ふんとも
いうゝうゝゝ中をゝんうををて中 一品宮とゝ給ふ
やうををゝまゝゝさをれ女二宮の初也 細 女二宮の初
ををゝいるゝにゝるをとて物ゝおとをあるゝとゝをををゝ
ゝ中をゝぬとゝを中をゝめとの給ふ 薫の初也 女二
宮をゝゝにあるゝまゝを下ゝふ女給と思おゝ給へ
ゝ我私ゝに女后と物をゝゝゝ

四天中天へ蓮乃事法也　白文も毋后はかりなり
是い乃宮も如りーあり
まはやも寺に事法へと侍とい乃り
丁子に為くそめたるうを地乃ひとへとうきやう乃なれ
しに法乃ひとこれまーあるを　丁子と変して
あをとふく深うるも裏れ様也　花　丁子染乃ひとへ
惟義さ様るり河うの乃こたりにきやうかなとーやた
菊乃垂衣あるを花面丁深うる心うやと年白文を女ス
果汁に物法乃也
女の所乃ありれめたるーあもおとーと与ろくまうう
みるい　蓮乃也一示文乃西をうこ乃をおとるを行まー
さ白文の法ろうち地とも
なれ有ーるとハ物ものを法へるいと乃おりひあり

白文おうるとハや事法とも
ひ法とろんも
地乃ー行ーり也見ろ乃也
乃見法へも一示文乃事
細　白文女一宮ろーく仏法と蓮
えーしりきれいとあるまーしさるもやきりむる我をそうり
ーまるといろ形ーさ　仏　女一文仏事
法といとおれくるもをて事ろ法ーり有る　白宮乃
絵をあまーをろせろく母后へ事り法とも
女房ーてあるーをり事ーせ法ーを日をもわーーせ法ぬ
白文ハ大文乃法およ形りーまーー有法とーを女房し
て一示文へ事ーせーを出ーくやーて家をるるを法也
大物ーもちろく事ーるーるを行ーて　牛文の法に白文物へ

[illegible]中よりて[illegible]中宮の[illegible]
[illegible]八講のたうやうもいとゝ[illegible]
あり　細　中宮のおもや
は八講のそうしきにまいるべきかの[illegible]
源氏[illegible]
[illegible]たる絵[illegible]
[illegible]
[illegible]

とうさうそのかたちにてそわらめ今はしらしめすらん
大宮の色者やいかゝなりしとも女二宮とし一品宮もいとも
いとうつくしかりし也 細同
さまこそいとあてやかにうつくしけれ 女二宮はいとて
一品宮へまいりたまへるを御ものいはせたまへるそのかたちの中宮にの給へる
細 菫也
うれしうきこえてうけ 菫の羽也
もとうたまへさをいはんとも 菫の羽也女
宮はいとをかしくうつくしうもあるかな
ものいはせたまへるゆゑにはそれまあゆるとにはをそれ敬まへ行てうまて
をいはつさと侍りいはやうしくあまたしくうつくしうとも
大宮と菫の花見れんなれもうつくしう 細 ものうつ
うとくしくもまさりたまへるかな

かくうつくしくてはゆるしたまへるゆゑにはをそれ敬しがる
まへさをいはんとそうまへうつくしはゆるへくれ 仮 菫大宮
の花見なるはは女二宮をはしめたまへりをまへいはるる
わゆるうつくしもいとひ行へきるかな
まへうまさもやはなまいはるんとをそをそをいはんを
うつくしさにはいはるをまいはつを まてはあるまう
女一宮と女二宮うつくしさにはいはるにはあるし
まをはたまうへうへにまてあるをうへをひとを
たうとはいかはをうつくしさは菫の羽也
もはたまうへはをはしはもうをいはつけて
大宮のかををまうはをはれはまてはは菫の羽はは
をうへはの羽をはは答はうはは羽也をあはは宮宮

人なりの心やされども葛の心をとりうるまく物へし
立ぬそ一ぬりのんきしれんよりはんん　葛たるの行ものと
是ぬや心きしれんとふ事およりんとや
かりしりことのもたくさのよりんうをおりめして
葛の女一ぬをとりて流つをたるうとものとさめてたなく
さめにんぬらんとや　八海の河のうと度や
たまうへとおるこりうちうく為ちしありけると
女一ぬのあまうへと葛れうと行さ海や
みとのうちれんくく心とにようういを　女一ぬうれんく
葛よちて引はうちひんうひをうや
をにいとちうくうちとなれもてすまく　女一ぬ
つのれ侯神可然と葛のうあんや
りうこけくうたちの男侯の葛たちのとわうくのつのけうへ

もれた
はまよ戸のおよりおるくたうにはまうあくく　葛の河や
一ぬるの女房とのおるや
はりのうをさんよりおるとのかくおるを　女一ぬれ物と
女一ぬのうるを女房ちとにうおるを葛れ河
りと為はくなくおるひうてはるの心ちくおると
女一ぬりをさんよりおるれあけまとかる葛うやく
うちたる心ちをるやや
今まりうや思わうくあちん　葛の河やとうちとさひ
くよまうんとうとれんや
あうはうたくりうさんとおるうんうと
葛のんやあうるくしきおるとうんうとやうるる

人〻ことゝく涙にむせびやその人〻をもくうもくやるぬへ
打ひのきんたちやこゝかの涙にむせびやまさかはりとそ
り菖蒲の根と紙合ぬやうれ心地
ぬひの涙ゝにむせるぬやう 細 夕涙にむせ給やや
いかゝとあるゝをを行ゝそをにとくあるゝ世給るゝのなとと
ゝれさとぬる
翁中ゝ女房の文ゝ紙ゝうゝおれ
紙り菖蒲のかきなしいてゝゝ心ゝをゝとあまゝゝ
花菖蒲をゝとゝゝもゝ人ゝゝゝゝを行ゝくわゝく
行ゝんとゝゝゝ 細 女房達の紙や
人〻ゝれをゝひゝもあやゝゝゝゝ

大臣の御やまいつとめの行ひ
ゆらとをれたるんんをくゝれんの御をみまゐんゝ
心もちれあ可給人なりと八岩ゑんとゝゝれて八ゝ行ゝき
ゝとくゝ大臣のゝ給や　　はんと蕨
小宰相をとゝいとうゝろやをゝゝやの行ゝく
ゝあひくゝもうてあんとゝ大臣めれ行ゝゝめをや
ゝゝゝゝなれと　大臣と蕨八兄弟なれともゝけゝ
をゝひ給人とや
仏ゑとゝ行ゝゝゝをんを
ゝ給ゝゝと　女房をゝゝとゝと蕨ゆゝんゆゝひまくてハ
ゝゝゝゝ

宰相ものとりつくへきよしあるもの　細　小宰相殿白うへ
はきなくなりたるもの
のつるものなりとてくいひくらうへはうもあるもわるうもせ行く
小宰相殿白うへはいつくへもとやさあるもあるもあるもつひくらたる
言ものと美人とたうもあるもうるうるを行ものも
いとはんらんさは顔とうひきるこ物はかりくれいりてくる所
はくをやめなんとうるやう　大宮つ殿や小宰相殿白
へわるくなりはんとおくはいつくへやさあるこそ可然心なき
ものも
はくくものの法　小宰相殿白うへわるくしき
るものとうるうるものとのたうへうんも
いとはやくさるものをとて中将りしう　細　大納言殿白
るるものもたる大納言殿白うへるるものとうるうるも

とのたうへ
宮れ　二条の殿白れはおるるものも
いるるものとるれるものおるるるる
光　はりもうるうるる身のるるも
おるるるる殿へ　ひ物殿りあるるはるう
ひ物殿りあるるはるう
ひ物殿りあるるはるう　中将のるるも
おるるるる殿へ　今八重殿せるりるる
おるるるる殿へ　今八重殿せるりるる
おるるるる殿へ　今八重殿せるりるる

たゆたふやうにかすみたちこめたる春の夕ばえ
いとをかしうしたる空の色なりかぜのおとも
まことにあきのそれとはちがひたるこゑづかひ
なれどなほ虫にはまさりぬべきこゑなりかの
ものはかなきものにつけてもなほ人のこゝろ
をのづからうごかすものなりけりとおもふに
ものあはれなるこゑなりとあはれまさりぬる
ものかな　　ものあはれ

ものとおもふ心をたねとしてよろづのことの
葉となれるなり　　細　花鳥風月同

ものいとゝすゞましくとゝ　　ゝ

ものゝ音のすゞましきにつけてもまづ人の
ことのはのまがまがしきことをのみおもひ
つゞけられてなほ人のこゝろをのづからあ
らはれぬべきものなりけりとおもふに
ものあはれなるこゑなりとあはれまさりぬる
ものかな　　ものあはれ

たてき

そしたかもりたるやうもの
たてまつりやうありとて
おもてうつさせたる
もののうせやうれたりとて
蓋あるもさるものやとて
内くにうかせる
又まつ物ちとふそをき
をもとの細なるものの
ひとつをもつて
うちにもちたるものの
きたりたものよりれ行へきなり
蓋乃こと紙たるものの乃行也

細同

大炊寮下部
大炊寮下部
大炊寮下部
大炊寮下部

そもそもこの物語の所をとりて二乃宮うりおはしんせうこ蓋そう
はしるとろかやうにもうりをたるうりをたるにも
一乃宮より女二宮へ文をたるも
いとうるはしくてしかるべくこそ
まうさせたりしも

細

蓋乃四也一乃宮乃文と乃人給そのうつ
かくこそあるべきやうにまうしてとくうりをたるを
とうり今をさきをもとられたりるやうもそ大宮へ
蓋の一乃宮より女二宮へ文をたるものをとて振給
まうりをつかまれしも

細

蓋の四也

給ともはかくたるもを給へ　大宮より弦とも
と女二宮へまうせるもの
地付くはせをを給へ
ちとの紙付くに女二宮へ

つくることをうたがふ　弄　女一宮より女二宮へ参らせ給ふ
陰は中宮と申すべきなれども
大将殿うちまもりておはしまさせてありめでたき事なり
大将殿の御方の北の御方は薫より女一宮へ大将殿の御
ものまゐらせたまふ御事なれば　細同
ものうけたまはりの女房の名をば
ものうけたまはりの女房の名をば
物語　弄　四月　はつ花
物語　弄　物語　或又十月　一帖
物語　弄　筆　中将とあり　薫
心得　弄　女性　今はの中納言
物語　弄　古物語　物語

世にはいとせちなる門の中納言　花　薫大将
乃と女一宮　陰は宮
細　はつ花　今は中納言　薫の四位の少将
きたる物語　はつ花　薫と宮の名を
はつ花　弄　物語　陰は宮
一宮の女房　陰は宮　女
くとうきる陰とは女一宮　薫乃
とうきる　和　と薫乃
ものうけたまはり　弄　物語
乃女一宮　はつ花　今は中納言
はつ花　はつ花　女一宮　はつ花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

人のうたにさはりなくあらるる人をとて　菖蒲を菖蒲
乃池り拾到したるや　細　菖蒲地や　菖の字思ひのめ
たるる人をとて
うたをとりよせ　菖蒲
なるとうつり　とつてうまるとへ
一　宮ハまりこあたくさあるも　白のるやるもるれとと
ととの　白のるやるもるれと
とたすこさあるも　彼のてこにとへるの形見の
こともも　彼のてこ　の白のれとの白のれも
そこのはうこさるとも　中者のるも
ふくんられ　るうたをとひたれとと
あくしもふてうぶくん
中者とるもんたくと
ともたまこ　れ　のこみて

とあるもの白のうたも
又はまこ　やちとの　たんまくこ
たるれも　白宮乃心のまこ　をまこ
はこの　やもの中者　こうと
こうこの　の　とそ　のひとを
おつるとて　　
はおのあもめられあるあ
めのもの　れ人をうとんとう
きうくこ　　
　　
　　

国立公文書館
National Archives of Japan

らなりやをゆるして人をもかたらひしらせたる物語をもきり
あり給ふ代　はゝ従中文人の御ゆかりとやも
みるらんひとつの物のゝ表やも　はゝ君はいとゝ思ひまさる子ゝひ
とゝの物のことをゝ思ひ出るやも
いとゝ物ゝことなれば物の姫君のゝ思ひたる表
とゝもいつゝとやうくゝめてゝみまと　はゝ君ゝ中文
つゝ表人をの姫君ゝ思ひ給ふゝ表ゝ人をゝ
たりしとも
姫君をりしゝ人ゝ表ゝ人なりもとうゝ心ひとりを
中文ゝ姫君ゝ思ひ給ふゝ人ゝ表ゝ人をゝ
ゝ表人をゝ人をゝの御ゝ君ゝ心やも
ひゝ表ゝ人をゝ物ゝ表ゝ人ゝ表ゝ人ゝ表ゝ人

の話をもきゝたるに　武門の高山をめぐらしたるを見
身の位をとるべきものゝ山をのぼるがごとくやう
うて大宮人をせらるゝやも大なるかゝる姫君をの
君とうつるも
清せうの位をもつかくはうとをきくうり
細　蜻蛉の武門の息れ位をやをの君乃見身也　弄月
昨夜の月くまくいてゝとうれうの心なれし　一説
宮ゐくれを具ゐく可然とれんを合たる心如へし
面んとなく心とはくにうつるひ給　れ　をれ君乃
うきうあれしをの君をうちつひくむ　武門の姫君
なををしくをは仕のうきうあれいをれをの君をうきやも
細　をの二人拾をこれ細云ゐもあり　河よ同
をうきうをと紀あるをを話をおうれ如なる　をを君をは

物をきゝ話をしをれををは伝をれいをををと孔伝をを話を
ををやををを　弄　ほゝ人人のやうにく礼義ををを
ををうの細　をををを

うつくしうをかしくぞ
仰給てゐたるもをかし
大将もとうおはしましてもあ
つまとうきとも
明日今日やいつくとあるに
ものもとうしたまへとあるに
てたるるれはとうへとも
へやあらんとおもひ
あるなりんとの給へはいとう
あまもきおはしまを行
のあるとありうんの給
ひくしたるにはい
女たれとも又宮もたな
白女宮あるを
白れ白きと蓋
細 白女の
白女の白女あるを
宮の
白女宮の
春
細 白女の
蓋あるも或ひの家
給へるを
陪れ或ひの
なくなりやうにはるつく

女仕よ出給へるの船のはしらへたるを海あるくあしんも
八月ばかり給もとうしうぬとれ蓋のんも
あるうちにあるをたのめるあるもとうしうぬわきにしそもと
うひて 光 白女の白心の船はさるをとうは船の女のる
にこ出給へるも 細 船舟入あるを海るうも
花宮院つく
人まうとハ四まを行べ
心院はありまをハ四まを
細よしてはあるもたつ
はうとおるたいもらるるのうみたり
大女六条院はありまとしくれ禁中まりもあ
白ものもみたりやうにくの光源をるもも
細 六条院や中女一宮ものるもとう

源氏の法六条院にて人々くの位やうにみな
たのたてまつれたまへるをそれにめとりて
なくてとまりはてうさまつり給ふ　若源氏の物の中宮
とありひ給ふもいとをしく今も夕霧れはつうひやさ
ろくやも　弄　夕霧のおとゝ
ふらはやも　細　夕霧れ光麗とをう
つりしを物のたてまつられ中くゝつめ人ともをうめ
うさうのかまさうもあさうんありける　物の中宮の
女源繁昌しなとの事ゝ付れ物列也
公家例の法ゝあるゝ物法のほとにつれるとをたが
給つまゝうのくさいまり行て　白文ものをうつ
結傷し給ふ大宮の法六条院にあるゝ事ゝ
ゝうもあらんとも

ひとゝめ給ふゝ物ひるゝ給ふ物とゝ
白文ものをうつ物ゝ物ひるゝ
しやうに物給とも
こゝうゝゝ又宮ゝ物ゝ上あるゝ
物　白文ものをうつ
ゝゝ白物ものゝ
給ふ　物ゝ中ゝ物法物人家
宮ゝゝに物ゝ給ふんとも
んとも物家の法ゝ六条院の物家と
物ゝゝ物家の法ゝとゝ　人文藝中人物給
給ゝゝゝゝゝゝ　細　白也
ゝ物ゝゝゝゝ
ゝ六条院ゝ物ゝ
水ゝ物ゝ月ゝゝゝ　里ゝ人

しられて世をそうぶるもちかひとちかひ侍くもてこそ侍
白雲の山路をたづねてこそ侍らめ
知ゆめにたなびくも　細　白雲のたなびくも
なほ世とともに花の山まし行るに　白雲のうちに
めづらしてもあるやうるやんくのほのていつるも侍
とりんとよ世とはうりあるて事むのこり花はそもよ人
たるも
大将の花をいとはしもるもそもるもそ侍あるくもの
うをんゆるひるれ物よ居そひくらと　蓮をさしくさ
もひ陰つもるもり行ひ女房もたく池ひもたく
もつくるもみも
侍の二位の事り侍くはまへよわり侍り侍り　白蓮
事も大臣の八条殿も

かの侍従の物ものそ殿をもて　中納言の侍従今を
中納言の事は二位の事侍とのそさなるも
いつくるもくくもてめてたるのはもくせロひくるる給めく
せるをおりをまくくあるまくるくれく心うるもも
はの心うるとんよはそわるもれとうのあるうりたもいも
ぬるなまはんひりよはりはいくそ
もの世にあるくあるまくは白雲みくもも又蓮
みくもをひるもんよめてたるのもくさたくるも
めとやを侍従うの山も
蓮をうるのはるくもくもくこうまやうにやのくさを行へも
細　白雲侍従ひかくるもと行やの
今一ハ山ハ月の月行
蓮や　細
月つきくくもなくくくの蓮の立山行侍のうこもくれ

しとも　細　伺候也　蓋ようこれさるも
ちらしはてゝとももてさぶらひ　ぶらひあさましやはしこ
やとゝへしかくまね　もはれさてとゝのへもくさてたゝあへ
高くるやと蓋の物ほうんとくこれたるも
ゆゝしれわさとのようあさひたるとちふんくあまさる
てもくるとるもと無ひやうにもるあるあるあしてあにうしてとて
かゝるかゝつまくもあるほもくへるやや　蓋くくあるる
おくありてあるとゝつまくくあるほとの移也女房と
うくかとも花ようんかもくくかあくくとも　於　蓋の河
女子にうんかもくくかおくくくうくく　細　蓋乃日移也　郡と
くくんかもにくへる女子もあるまくさとも
さもうにはるくへうくんもとくくへかやくくなあくくもあう
おとちると蓋を伺ひ蓋乃もやもも　於　りにはるも

やうくはるしはにはくへうあ蓋にはるもんうまくさやの移へも
いとはくへみうはくのくとなるに　あるくんくくくくもや
うくくはるにはくへくれはうまくくるとと蓋のくの移也
蓋乃あるとかてあれたるあるとあ　細　女子にあるにはるさよ
らふ女房の中にあるとるひあるくんや　弄同
そもむつまくるはるひかあくへるくへるにくのくちかのくく
伺くあるや　やはい　蓋にはるはもう河也にはるむつまくくるつき
あくるるにはりあるくくらあくくあるの蓋也無あるくむり
まくくくんあるにくへるはくるつあるくくくも
河　原博三の家行と知られたるもの
わくまるようくくはくるふ柱柱はくもむつまくあるにくくくと
平　日にくるるれるあるを河よひまくるくと必おけくくくくくくくは
くくはあくくくさ河也蓋よ也蓋くくくくくくくく

[illegible]ものとも詞也と云詞[illegible]ちぬるやとする
ハやとそ云心歟へしたちなるものやとなるへきとも
細 そとハ詞乃義陽也[illegible]なるゆへとも[illegible]
まゝ[illegible]ともも 乃 弁詞義也
なれとそ[illegible]ちなる[illegible]也ぬとハひとくを[illegible]
拍ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
さやうにて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちそむきびくさあれあるにきも
もとつきひかりをて　菫の根や
女房もみくさく聖人よまき数とも
菫の　女房物語　細　あるにはなるをとう女
はくさあるにえをてしとも
よまき数ともあくさをとはたく弱まりられはやも
白くたてとの弱
世義物語　弄　菫乃細よ　あちこ人なをはち
人やをくはれをてや
女房よまき数ともあくさ
てとの弱
をくこれはくはくろまくあくをを
あくををせはあやはくはくはく

今まうのかり者ともうてまきれてとうのもとにあるを
多へしやみを　　墓の人やとよへあるとうの
さてこまてくるまあへうしもあやとうをもなれと
をうはれあつをとうくさる成只ているとうなをも
のこそはとをうるや　弄同　細　あしんとやしひとの
墓うるとをうをもくわしく　仍同
弄此物のとをいとをうやうたるあきれとめくを待うや
て　　弄うの物やとてあうこのにたるめれ為よみられやと
をあといてる成をれをあまりの人なる心とやいくく
うちをたるこてをもれるや　仍　報言をの人の物やく
年まりれるのとしてあさやうにをうしぬとめく　お
もひ行へをれるもをして　仍　弄
義をや義とへくをのと艶あるとをとをのく早下
して義とをれあやうとをうるや　細　おれ為の行をく
弄物をと為　墓の為
にをうをれをたにうはをうてを
にをうまうてをうを行へをとの行へるをを
えあとれ義や
をうく行をくめやををんやをへく　弄義や　墓く
に之寝行をく行をうを人とハをしへをとや
為をを一和を行をしをれをれ義はをうをぬ心ををとと
墓の為の墓のをををうのへめをうをぬ心をれる
をに為をとをふうを行をて一和ハ行をしをうや

表下

ゑ
指ひしてとわきはうくるあうぎハはうきうも
ゑ
ゑ
ゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朗

大唐四時心想苦絶伸二腸断之秋天　白楽天　菖蒲

しらぎく

菊つるるものとてもひさるものはしてもやのぢうし

ちりとうとりてあるさにつるや　もの花と云と名をそ

あさなれと為のこたりうへ菖蒲つくることを言葉へハ白なる

手に陪るとあまくことをとるやわるやハ一品宮れは

まや　弄　菖蒲のされはよわりひうしてはうこのうるや

ちりきぬ為ことをへしへ白とう事

宮のあめこわりて　白文のうり

もちりとけるさに為ちりをそ行へ

白文の詩也　女一宮へ参る紙をと四絶也

彼はうこうの中ねの天と雪のやや

なれあやしのまるや　一品宮の女房と参也

菖蒲のんも白文れ四絶つ雅ル

須臾やてもとうてやてあのうる事ハ白のまるとよゆう

しきをもるれとれ義也　白文のうとをいうる也

雅はうをうそ先ハもうもそうへよやうてかくゆうしを

なく雪ゆ為名さしまといとわしく　白文つる雅と

もはるうより四をとうを為へうも

小宮ゆ代為あるれてのこ白ゆうこ人あ為色白わし

菖蒲のんも白文ゆ代女房ゆとれ別をゆへよケ為うう

花素ゆとうる代移ゆ　細　白へハ雅をわ

うれめなれあるうもや　白　菖蒲のんゆ中ねうと菖蒲

ちちひるうあるうあるさをわうをを移ゆをしくれ

ゆをや

わるたうてうるうちなるうはもてうに女ハうをうをまを

なるうめ　菖蒲のんも白文ゆ為とよりううてあるうち

なるに如るものなきを知るべきなり
乃義也
[illegible]さるに口ずさみ口ずさみゆるるに心ゆくの意歟
蓋の心也此詠歌の中に八重を女一宮とは伯父なるべし
うとくしく成給ふとは下心あるにもてなく
云る如くしさもとかハてよとの詞也　美さを知や
一品宮の御うとに蓋のうとくしさをとかるの給
ふるやうと　細　女一宮のうとさ給のうとや　孫　蓋を中宮
乃事なれハこのうとくしきをあるべきうとくしく
事をもあらぬ也
ひてはうとくしきをもつてうとくしくしんの　蓋の心也一品
宮乃内の白宮の御心よりはまてくさうとく給へんへ
ふれうとくしくひすりて白宮のうとくしくなる給

やうに云るとの義也あるひ〳〵やうにたるものとの
宮のわるくしく話時やうとうとくしくしやうの白宮のひ〳〵
らをやう乃義也
まこのんいまてさうとく給へうんとうとくしくんとうとて　孫　宮の
心乃話うんへのう
我ごとひ〳〵やうにやうとうとくしくやうとうとも思のうをちうん歟
う　細　浮舟のうにんをはくさを給ふ話をうとうとと
蓋の云給へう
今をあうんへうをわうるにそうるへうや　四あうんへハ
ふうとうとうんとうとうさやうへさうとうとうとうとうとと
うとうこのまあ思のうれと給のあはうう〳〵やうとうとて
給へうとうとおうれとハうるやうへのんうとうあ給ふ歟とハ
はうへ〳〵　細　へあうう安ハあるハうるうへ〳〵とも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時一条とうひまうし給へ　細　女一宮とうとうとり給へ

弄　女一宮のわらはやまひをなつかしうとひ給んや　給　一条

宮はかの中宮の御はらの御子にて　給　八歳の御事にて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮殿ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

とゝさまれ行よせさを行ゝとひ行ゝ
童ゝ知也あるゝさと童を中ゝの内ゝさと云一ゝ
内里住みゝくハ何ゝをとなくさゝに行と行也
里と行中ゝの内ゝ　細　中ゝの内ゝあり　行内裏ゝ内者　童知
ゝとゝふゝくゝもだんにゝをとゝハたゝくゝやゝみゝくゝ殺ハもくゝさを
行ゝめれといゝに　女房ハ在者也ゝ御ゝを行ゝるゝを者行
ゝをゝたゝくゝやゝみゝくゝをゝとゝを殺ゝを引行ゝと也
細　人ゝとゝるゝ也ゝ兵ゝ様ゝの内ゝ也ゝをとゝなゝゝへゝゝゝ也
行ゝゝれゝゝゝ方ゝの行ゝやゝゝゝ

の陽とそあれとハ女一宮ハ中宮の腹女三宮ハ女院の腹
腹なれハそれとうめの上腹沙汰みなくこそはれとの腹や
みなとくの母ハ[一ハ]つきたる所ともとあ[一ハ]ーさたるなる
とは所あるとハとそもけりあてとそあやしられ 細 女三宮
乃又乃朱雀院女一宮ハとそれ乃よるれそもうつる
ゆとそ紅葉の色乃
あるとうしハ心ゆくうとあるとおられるとそひはくうとうと
ゆもに 中宮の母ゆるるあるれハ人ゆくうと葉の色乃
あるとくせをいとやんとうとうとうとうとうとうとう 葉の色や母とそ
なるとそとうとうんめしとうとうとうとうとうとうとう 又女三宮とそ
おのるとそとにとゆくうとあるとうとうとうとうとうとうとう
ん宮乃女二宮とうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
まとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

葉の乃ま女二宮ハ一乃宮とあとうとうとうとうとうとうとう
やとうとうとうとうとうとうとう 細同
宮乃宮とこの乃れとうとうとうとうとうとうとうとうとう
のとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
乃るとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
乃とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
乃とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
葉の心 細 髪乃ゆるるとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
葉の乃とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

行ゝとうとみてく立ちあがりもの　細　或ものいとも

行ゝ物とともや

人つきてくゝ行さ面なりとと

くやう　　童女の業よりたちやてく乳入る物也

もゝそのほゝとゝみ面物をたてのをゝつまにすきちちく

はたう行へてもゝくゝとなひたる人へてくゝつと

ケ板よりたちたう行うあれうとつ可能物と業つと

ひ行とも

人をあ四つをちと学ぶ物也　業の羽也文

面中北宗ちたとゝいん人童たちひをるゝ

うんとをたてをまつをゝ人のひるゝてあれうと物の

ととさゝのやうよ如ゝんとも

中く皆人中のゝさをゝるゝてんうをくゝゝさ物

てまゝ面やうにをうゝ行ゝう　元　故宮の古仏ひを八雅ゝを学

ゝるゝ行ゝんとをわるゝゝしをまゝ行ゝもゝと

まゝやうにゝんゝとをかゝとをゝれ行ゝとの行人ゝを

ゝ実よ業の仏中ゝ人のいゝゝ物あ物もゝあたゝぶとれんも

引ゝ　元　ゝて物ゝとまゝゝにゝをれ天ゝゝを行ゝ面ゝゝん

刈古ゝの代羽ゝとゝれてゝて物ゝとゝゝんも又仏の中ハ羽ゝを

いゝ面ゝにゝとまゝとゝゝをゝゝをゝとゝゝめやゝゝ

弄　四よゝゝくゝゝゝゝハ羽よハゝゝゝゝゝゝ物ふゝゝゝゝ

ゝとゝをゝまゝゝ行人ゝもゝゝ引ゝ同　細同

天ゝゝゝゝゝゝ

細 うちうちにてやうのもの

あるあるかひやのこさを結ぶをうつくしきものとしたるもの行くへもしらぬ

ものん　　式部卿宮八宮家にて

とも又蓋はやはりつくしたるもの

ゆくのこれりくやのこさを結ばなりたるとうとうとひ

やのこし結ぶめるとも　　女房の頭も蓋のうへ結ばれ

ゆうしうとうとを蓋にかけ結ばれたるもの

うひ結ぶとをとるもの　　光　蓋のうへのうとうの結

ぶとうとるも

まうらくれんめさて四つのさまやと物うそれハ

蓋の行もをたまれんのやうに宮ものもを物も

ゆうしうをりをんのまうしさとも　　細　蓋のうへもあるく

ゆうのうとくにんの物うとなる物とも

もとうとはりしうをのまうしさとうとも　　蓋の頭も

蓋とうえうとハいうとなしれはおりうまうきすち

とうとう　　細　蓋の頭やうえうもうるも

今ハまうしうのゆうんさうとにつきくもはりんあんう

きしうんさうとくしうんはくるとみくるてあるなる

結ぶくえうもとの結ぶに　　仮源　ゆうのハもとうり只とハ

まうしうのとけ振はうの仕ちもしゆくへたるものに付ても

只ゆの結ぶうきとうもうくうんとも　　ゆいうき毎の勇

ちうとうもうん

きびはもとうさうのくうとひうさゆううゆうべうのれて

女房蓋のうとうとの結ぶとうとうにくうえうゆ

しゆのうてんをとをおうこううたるもの

細　ちくうおうろうおうるも

れたるものとおぼしきあるべし　　あるべきの理也極楽言
ゆとは善悪共無記なる人のうまれ　　雖也凡人のたとへ
ば善悪の行をもつて　　引用　雖然なれども凡人
よりはんぬるものの行をもつて　　善の人なりとぞ
細　とぞ　　凡人もすべてとひしりみるべし
まことの善をもつてはいまだ　　まことの善にもとづく
人はいくばくもなくいひ　　行ずる者はいとわづらはしく
はなし　　善の理也　善のゆゑれる事とは　　凡人
のもつぱらとつる也　細　もとより　　つる
やうなる也答也
なさしなほうとひたり　　れまつりきはあるべきとは
ものの心
そもそもくれなゐ　　ものとわづらはるべきと

たるとはいつそのもうりとんまきはあるべしひ
ろんとなるべきもろもろのもうりもいとかめりめりんう
しやうんはほりきをもひろまるべし　　善の人也
武の道仕人あるべくは武をもはげまし
まをもろもろ人なる道をもとやもちとえをもちもつる
ひまもなくをもりをもらるべくは不可絶との儀也
光　ケ様の道仕あるともなくうまれ独住ちとも
なりうる人をもとも　細　宮乃道の人とも
つるべくしをもはげまし大なる細有まし宮の
道の所見狂みるべくはいまし
乃ちもつくやをもんとたり
仕人おもてまいのうれ清んみ
をもも　　善の人也仕道を

そもそも　細　白官必清心みるべしとも
おもうとうせやとこうひ白給うう　墓の人也可然人なる世
上ゝ白給うこれ物そとも　行とも　墓の如く別者給とうさ
さうにんおとゝ給とう後也　細　十分なる人ハ多くとも
もゝそハ隙なれ人うゝはもの物たて給へる姫君
文字とハ文みとれりつきて給ゝ人そうとも
又うとうとそ物ゝ給へき　文字のそうひ也世ゝ
つう給もある物そとの墓うんも隙をまたれたりゝ
もをれと此義也
わやゝうゝ者ゝ者ゝ八されひゝ也ゝ此ゝ山の者とうう
より出給ゝの物ゝなる付給ゝ者ゝ
宮仕ハ文の姫君をれみ給ふ　ふとうふ世たちあうう
ゝきけなるうとおりやそ墓の者やゝうけ給ゝ

ひ給ふ也　細　大略皆陸奥とうもは山文字ハつ
なれものあるれハ文うえ　ゝたうひ者ゝ者ゝ
本思後ゝ給也
はそうりやうゝしやうとなれんとやうの行うるを
ゝけうゝうそ行ゝうゝ　墓のん也
也ハ墓うるをうう後ゝゝ給ゝなひ給
ゝとゝうゝ千様うと八兵今文字ふうゝ人者ゝう
ゝまゝこれうハまうゝたるゝ者ゝ
行者ハはをそ也ゝゝれひゝ
墓のゝ也ゝ行ゝ者ゝ給ゝ給ゝ給ゝ給ゝ
ゝ給也
ゝやゝゝはゝゝゝゝ墓ゝゝゝゝゝ給ゝ給ゝ給ゝ
ゝ給ゝ墓ゝゝゝゝれをゝうひゝゝを

宇治の水元を尋ぬるに葉の茂れあやしきまでなるゆゑ[illegible]
なりゆめ行ゑ[illegible]
やうや

あらととんくゝ[illegible]
葉あ[illegible]
らもなれ[illegible]
[illegible]
ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

作り去あらくしれの所なを作るとぞ出うなよう
やうと

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan